

みちまちづくり

シンポジウム

「みち」が変われば「まち」が変わる

日時：平成25年10月20日(日) 13:30~16:30 場所：中区役所ホール

名古屋市では現在、自動車中心の道路空間を、人が主役の賑わいある「みち」に変えることにより、「まち」を変えていこうという「みちまちづくり」を推進している。その一環として、荒俣宏氏の基調講演および3名のパネリストとコーディネーターによるトークセッションが行われた。

第一部 基調講演

名古屋の「みち」はおもしろい

作家／荒俣宏氏

名古屋開府400年の時、様々なイベントにみちが利用されました。みちはエンターテインメントのスペースであり、交流の場です。名古屋がこれから行うべきみちのテーマは、歴史に学び、交通の新ビジョンを持ち、健康を守ることの3つです。

車中心のイメージの名古屋から、人が中心となる「みちまちづくり」を打ち出そうというのはとてもない事業だと思えます。20世紀は道の主役は車だという考え方がありました。それを大きく転換させようとしています。

昔は道に開所を設けてお金を徴収していましたが、信長はグローバルな流通経済を確立させるため開所を廃止し、道を整備し並木を植えました。さらに秀吉、家康へとみちづくりは受け継がれました。太平洋戦争後、戦災で荒廃した市内からお墓を広大な土地へ移したり、2本の100m道路を作るなど、当時としてはとんでもない復興計画を実現させたのも名古屋です。信長以来、この地ではこうしたことをしてきました。

名古屋の2本の100m道路はパリのシャンゼリゼ通りに似ています。上手に活用すれば素晴らしい観光資源になると思えます。そして街の見え方も含め、健康をデザインできる「みちまちづくり」が大切になってきます。



第二部 トークセッション

みちまちづくり

- 森川高行氏 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)
- ジョン・ギャスライト氏 (中部大学教授)
- 赤崎まき子氏 (㈱エイ・ワークス代表取締役)
- 飯尾歩氏 (中日新聞社論説委員)

歩く人が増えれば街は活性化する

飯尾 会場の皆様からビジョンの賛否をお聞きしながら、最初に都心部から自動車を減らすというテーマについてお伺いします。

ジョン 私は街の中を歩くことが大好きです。

赤崎 でも、子育て中は車が必要なんですよ。

ジョン カナダで歩行者中心の街を作ろうとした時、お年寄りや子育て中の方から心配する声もありましたが、むしろ歩くことで人との触れあいが増え、お年寄りも健康になることが分かりました。歩く人が多い街は他人の目に触れやすいためお洒落な人が増えます。

森川 高齢者が歩いて外出しやすい街になれば、助け合いの心も芽生えます。事実、最近は地下鉄の車内でお年寄りに席を譲る若者が増えていますよね。車を減らすだけでは商売に支障が出る人も出てくるでしょうが、都心部の約30%を占める車道を減らした分、人が歩きやすい魅力的な道を増やせば、商売にもいい効果が出るはず。車で来た人よりも電車で来た人の方が、街での滞在時間が長いというのが一般的な傾向です。

ジョン リラックスして歩いてもらうと、サイフのひもが緩みますよ。

赤崎 名駅から栄まで、お茶やショッピングをしながら地上をぶらぶら歩けるようになると、街がもっと楽しくなると思います。



自転車の利用をもっと考えたい

飯尾 歩行者と自転車を中心とした街づくりを進める時の問題についてはいかがでしょうか。

森川 自転車は車道を走るのが原則です。車道にペイントで示すだけでいいから自転車レーンを充実させたいですね。

ジョン 世界中で自転車ブームが起っています。カナダでは自転車のためのインフラを整備しています。同時にマナーが大切になってきます。台湾では自転車を利用するとき、スマホで様々な情報が得られるようになっています。



街の中へ一度に たくさんの人を運べる公共交通

赤崎 戦国武将の足跡などを活かし、さらに江戸や明治といった歴史軸で商業施設などを整備すると街全体がテーマパークようになって、国内、海外からの集客力もアップするのでは。

森川 その時重要なのが移動手段です。

ジョン 名古屋には隠れた文化も多く本当に面白い街です。幼い時に親と一緒に歩いた人は脳が発達するとも言われています。

赤崎 これからの社会はゆっくりした時間を大切にできるようになってきます。着物姿で歩ける街になるといいですね。

森川 車で運べる人数は1車線1時間で2000人程度のもので、地下鉄はその10倍以上運べます。たくさんの人を街中へ呼び込むには大量輸送機関しかありません。

LRTや水上交通の積極的な利用

飯尾 会場の方もほとんどが歩く機会を増やしたいと思っておられるようです。次世代型の路面電車であるLRTもそのための仕組みになると思います。

森川 駅への上下移動なしで乗り降りできるLRTは高齢者にとってもいいと思います。運営方法によって料金を低くして黒字にもできるはずですよ。

飯尾 会場から運河の活用や電車に自転車に乗せられるようにして欲しいというご意見を頂きました。

ジョン 私の出身地でもバスに自転車に乗せられるスペースがあり、自転車を持ち込める電車も増えています。

赤崎 陸のみちだけでなく、堀川や七里の渡しなどの舟運や松重開門、名古屋港からの海上交通を復活させ活用するのは、観光面でも大きな効果があると感じています。

森川 新しい「みちまちづくり」は信長、家康以来のみちとまちを大切にきた伝統がある名古屋だからこそできると思います。

